

# 健康と光線

## 忘れてならない太陽の恵み

文明の負の遺産と言つべきフロンガスが地球の防護服のオゾン層を破壊し、紫外線の質を変えたこともあって、太陽光線に対する誹謗中傷を見聞しますが、仮に太陽光線の功罪を論じるなら、功が優ることは言うまでもありません。太陽は生態系の重要な要素であり、太陽の恵みがあって実りがあり、生物は存続できることは自明だからです。

太陽光線的作用については、二十世紀の初頭までに紫外線の殺菌作用やビタミンDを生成させる作用（抗クル病効果）など光化学反応に基づく作用が発見され、光線に関する研究は紫外線的作用を中心に進歩しました。今、世界的に大問題になっているSARSの原因とされるコロナウイルスも日光消毒で簡単に

死滅するのは紫外線的作用です。

一方、赤外線は熱線と別称されるように温熱作用が主とされてきましたが、二十世紀の後半に赤外線の温熱作用で生物の個体や組織や細胞を通常の生育温度より高温にさらすと、遺伝子に熱ショック応答と呼ばれる反応が起こり、熱ショック蛋白質と総称される蛋白質の合成が促され、内因性生体防御因子として作用することが明らかにされました。この蛋白質はストレスに対する抵抗性を誘導することからストレス蛋白質とも呼ばれますが、このように生物は常に太陽の恵みを受けて生きていることを忘れてはなりません。

## 熱ショック蛋白質の作用は蛋白質の品質管理

熱ショック蛋白質の発現は細菌から高等生物の哺乳類まで共通に

発行所  
〒153-0063  
東京都目黒区目黒  
4-6-18

## サナモア光線協会

年4回発行  
会費年500円  
東京(03)  
電話 3793-5281  
3712-5322

## サナモア光線療法の温熱作用について

—その3—  
一適応症の拡大につながる効果—

サナモア光線協会

サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

### 適応症の拡大に期待

サナモア光線療法は太陽光線の全波長を放射する総合光線療法で、温熱作用はその一部ですが、これまでに経験したさまざまな効果に、赤外線

の温熱作用で合成される熱ショック蛋白質の相乗効果に関することが強く示唆されています。

温熱療法については現代医学でも適応症の拡大について検討

示しています。

熱ショック蛋白質は標的蛋白質と結合して、その蛋白質の構造形成や機能や活性を制御します。すなわち蛋白質に構造上の間違いや変性があれば正常構造に戻し、機能障害があれば機能を正常に回復させる機能を促進するのです。このように蛋白質の品質管理機能を

夏時臨時休業のお知らせ  
八月十四日(木)から十六日(土)の三日間、臨時休業致しますので、よろしくお願い申し上げます。  
(株)東京光線療法研究所  
サナモア光線治療院

されています。これまで温熱療法は主に癌治療で用いられてきましたが、近年、温熱療法の適応症として、ストレス潰瘍(胃十二指腸潰瘍)、外傷、炎症、感染症、外科手術の前後、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、関節リウマチ、関節症、酸化ストレスによる動脈硬化に起因する疾患(脳血管障害、心筋梗塞、脳梗塞、高血圧、強直性脊椎炎、自己免疫疾患、潰瘍性大腸炎、多発性硬化症、うつ病など)さまざまな病気に対する有効性が検討されています。更にHIV感染者(エイズ)のウイルス量を減少させることが可能との報告もあり、また蛋白質の高次立体構造形成のプロセスに何らかの問題が生じて蛋白質が凝集するアルツハイマー病への応用も検討されています。



一病息災

## 糖尿病

一病息災

サナモア光線治療院

院長 医学博士 宇都宮 正範

## 病気の解説

糖尿病は、インスリンの作用不足により起こる慢性の高血糖を主徴とする、特徴のある代謝異常をきたす疾患群と定義されます。多くは遺伝的素因を有する人に、肥満、ストレス、運動不足などの環境因子が加わって発症しますが、遺伝的素因や背景もはっきりせず突然発症するケースもみられます。しかしながら、いずれの場合も食物が十分に身体で利用されるために必要なインスリンというホルモンの働きが不足することによって発症するという点に違いはあり

ません。インスリンは、肝臓や筋肉、脂肪組織など全身の組織の糖・タンパク・脂質代謝の調節に重要な働きをするホルモンですが、その不足によって、筋肉組織などへの糖の取り込みは低下し、肝臓から血中への糖の放出が促進されるために高血糖が惹起されるのです。

つきに糖尿病の発生頻度ですが、世界的規模で増加傾向にあり、本邦においても、過去30年間に糖尿病罹患患者数は激増しており、1997年の調査で患者数は690万人、糖尿病予備軍といわれる耐糖能異常者は680万人と推定されています。また新規の糖尿病

症 例：60歳、女性。

主 訴：糖尿病の治療目的。

起始・経過：10年前に糖尿病と診断され、以来、食事療法(1600kcal)と運動療法に加え、経口糖尿病薬の内服治療を行ってきた。血糖のコントロールは良好でないが(ヘモグロビンA<sub>1c</sub>:10%)、発症時に60kgあった体重を現在50kgで維持しており、合併症は併発していない。

治 療：側臥位にて45分、5灯照射。腹部(BD)、上背部(BD)、腰部(BD)、膝(AB)、足裏(AB)。

経 過：在宅での光線療法をほぼ毎日続けながら、月に1、2回の頻度で全身照射を開始したところ、以前に比べ体調は良く、血糖のコントロールにも改善傾向を認めている(ヘモグロビンA<sub>1c</sub>:7.6%)。

\*ヘモグロビンA<sub>1c</sub>:血糖のコントロールの指標として用いられる数値で、正常値は4.8%~5.8%。

## 病気と光線療法

尿、全身倦怠感、体重減少などといった糖尿病による症状が出現する前に発見し、生活習慣や食生活を改善することにより、病気の芽を未然に摘み取るようにしなければなりません。

糖尿病は罹病期間が長く長期にわたる慢性疾患であり、食事療法や運動療法を日々実践する必要がある病気です。食事療法においては、個々の日常活動度に合った適正なカロリーに従い、運動療法は、ウォーキング、水中歩行など大きな筋肉をリズムカルに動かす有酸素運動を、一回30~60分程度、週四、五回行うのが良いとされています。サナモア光線療法は、内因性のインスリン分泌を促進する作用があるため、高血糖状態を改善し血糖のコントロールを良好に保つとともに、糖尿病に伴うさまざまな合併症の予防効果を期待できます。毎日続けることにより効果が表れますので、是非お試し下さい。なお、糖尿病により知覚障害を伴うことがあるため、治療器に接触し火傷しないようご注意ください。



# 第八期

サナモア光線治療師  
養成講座を東京にて開講

第八期サナモア光線治療師養成講座を、四名の参加者を迎え、五月に東京において開講しました。今回、治療師認定を受けられた方々をご紹介します(写真右下)。

# サ/ナ/モ/ア/便/り

vol.14

宇都宮 正範

## 第十四回

「光と熱研究会」の  
お知らせ

医療に関連した話題の講演や治験例の報告を中心とした研究会を開催していますので、ご参加下さい。なお参加は無料です。  
日時：七月十二日(土)午後二時  
場所：サナモア光線治療院  
三階会議室

治療師認定者

笹原弘(山形県)、河野美知子(福岡県)、榎本法子(青森県)、菅原悟(北海道)、以上(敬称略)。



## 治療院紹介

六甲サナモア光線療法所

(写真上)

(平成十四年十月一日開院)

電話：〇七八八四二一三五三五

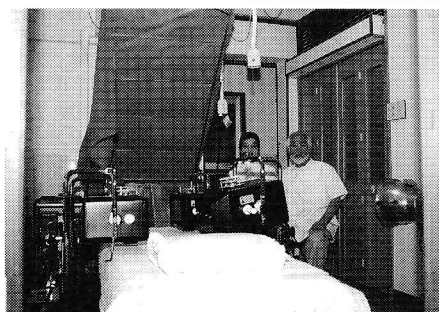
住所：神戸市灘区深田町一丁目

十二春美マンション102号

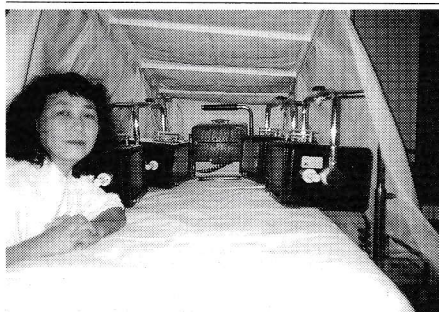
交通：JR六甲道駅下車徒歩三分、または阪急神戸線六甲下車徒歩七分

院長：寺西清春先生、久美子先生

一言：私達とサナモア光線療法との出会いは今から二十年以上前に遡ります。神戸の上野先生から色々と学びながら光線療法を続けて参りましたが、頸椎ヘルニアと腰椎ヘルニア



寺西清春先生、久美子先生



岡田笙子先生

を治した自身の経験も手伝って、この程、光線治療所を開設致しました。これからも多くの経験を重ね、皆様に喜んで頂けるような治療所を目指して努力する所存でおります。

## ◆ 募 集 ◆

## サナモア光線治療師

当協会の趣意に賛同され、サナモア光線療法の普及にご協力頂ける方、治療院の開業を検討なさりたい方は、お問い合わせください

サナモア光線治療院

〒153-0063

東京都目黒区目黒1-23-11

TEL (03) 5759-3710

FAX (03) 5759-3720

## ライトセラピー・とつか

(写真下)

(平成十四年十二月一日開院)

電話：〇四五八八一一八九二四

住所：横浜市戸塚区戸塚町七二四二六(郷和台)

交通：JR戸塚駅西口バスセンターより大船行き長久保下車徒歩七分

院長：岡田笙子先生

一言：福岡の母の影響で、子どもの頃よりサナモアを使っており、その効果にはいつも驚かされてきました。これから、少しでも多くの方が健康で快適に過ごせますよう、「朝の来ない夜はない」をモットーとして、サナモア光線の啓蒙、普及活動に励む所存でおります。



## 治験例報告

## 脛骨の複雑骨折が

## 驚くほど早く軽快

神戸市 ウエノ光線療研

症例 41歳 男性 教員

症状 修学旅行で生徒を引率してスキーに行った際、ゲレンデでブッシュに引っかかり激しく転倒した。最寄りの診療所で応急救置を受けた後、即日帰宅して近医整形外科を受診。レントゲン検査などから脛骨の複雑骨折と診断され、ギブス固定および感染予防のために抗生剤を投与された。しかしながら、翌日全身に薬物アレルギーを疑う湿疹が出現したため、サナモア愛用者である母親に勧められて来所した。

療法経過 治療はBCカーボンを使い、脛骨の骨折した患部を正面から30分、両側からそれぞれ10分、次にABカーボンにて腹部10分、腰部10分、足裏20分の照射を一日に二回から三回行うよう指示した。四、五日で痛みと腫れはかなり軽減し、その後、日増しに症状は改善、約一

## 上野 健太郎氏報告

か月で出勤可能な状態にまで回復した。病状から判断して少なくとも入学式までは杖を

## 治験例報告

## 膀胱結石を光線療法で排石した

福岡県春日市 育美健康光線療研

山崎 いく子氏報告

症例 54歳 男性

症状 サナモア愛用者の方から電話で、近頃、尿が近くなり、排尿の終わりに少し痛みがあるの、悪い病気ではないかという問い合わせを頂きました。こちらから病院での検査を勧めたところ、しばらく光線療法で様子を見て、どうしても治らないようなら病院に行くとのことでした。

療法経過 治療はBDカーボンにて下腹部を60分以上、下腰部を30分、足裏、膝を各20分、そ

離せないだろうと言っていた医師も回復の速さに驚かれていた。本人にとって、このように治療期間を短縮でき、新学期からの校務を同僚の先生方に迷惑をかけずに果たせたことは非常に嬉しく、心からサナモア光線療法に感謝されていた。

(TEL) 〇七八一三三二一三五八

して下腹部は一日に何回でもよから照射するよう指示しました。一週間後、再度電話を頂き、今度は排尿の際の痛みが少し強くなり、尿には血液が混じり赤くなるようになったけどこれまで通りの照射方法でよいかとの質問でした。ご相談の内容から、もしかしたら膀胱に結石ができていて、その結石が降りてきて尿道につかえているのではないかと考え、BDカーボンで何時間でもよいから下腹部を照射す

## サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA(緑印)、B(赤印)、C(青印)、D(黄印)カーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともどもご愛用者各位の御信頼を戴き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことはご存じの通りです。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、当研究所が独自に広めたカーボンの呼び名のA、B、C、Dや緑印、赤印、青印、黄印を勝手に流用したり、あたかもサナモアと同じと見せ掛けて販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる人をあざむく行為は断じて許されるものではありませんが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任は持てませんので呉々もご注意下さい。

なおカーボンについて疑問の点がありましたらお問い合わせ下さい。

(株)東京光線療法研究所

## 治験例報告

## 悩んでいた慢性湿疹が光線療法で治った

川崎市 東京光線治療院

海渡 一二三氏報告

症例 31歳 女性 自営業

症状 平成十三年五月頃から、身体全体、とくに顔面、腹部、

ることと、水分を多めに飲むように指示しました。さらに一週間経過後に頃電話してみると、数日前、排尿の時に、からからと音をたてて便器に結石が落ちたとのことで、その結石は記念として大切に取ってあるので今度機会があったらお見せすると

のことでした。そして、その後全く痛みはなくなり、排尿も問題ないとのことでした。こちらからはもうしばらくは下腹部、腰部を中心としてBDカーボンで照射を続けるよう指示致しました。

(TEL) 九二八

五八一〇三九  
五七二一五七三

肘関節周囲、大腿部などを中心として、痒みをとるような湿疹を(五ページにつづく)



〈四ページからつづ〉

認め、一部に潰瘍形成がみられていた。そこで、病院を受診したところ、慢性湿疹と診断され、副腎皮質ステロイド剤や抗生剤の投与を受けたが症状に改善はみられず、アトピー性皮膚炎を光線療法で治した友人の紹介で、翌年七月に来所した。初診時、皮膚の表面はかさかさで赤くかぶれたような状態で、アトピー様の皮膚炎を呈していた。患者は自営業で毎日の通院が困難であったため、早速光線治療器を購入し自宅での光線療法を始め、月に一回来院して治療することにした。

療法経過 治療にはBDカーボンを使用し、当初、光線を患者

## 治療例報告

### 項部の腫れ物(せつ)を

#### 光線療法により治療

奈良県 森カイロ療術院 森 徹郎氏報告

症例 30歳 男性 会社員  
症状 数日前から体調が悪く、項部に発赤、腫脹をともなう腫れ物ができ、激しい痛みのためか肩こりと頭痛を感じていた。来院時には、項部に圧痛と熱感

をともなう腫れ物を認め、内部に膿が貯留している状態であったため、排膿する必要があると判断し早速光線療法を開始した。療法経過 治療はBCカーボンにて、患部である項部と足裏を、

の肌になじませるために20cmの距離をたもって照射した。左側臥位にて顔面、腰部、膝、腹部、後頭部、足裏に10分の照射と皮膚患部の照射を行った。次に、仰臥位にて左耳部、右肩部、左腰部、右膝側面に10分の同時照射と右耳部、左肩部、右腰部、左膝側面に10分の同時照射を施行した。自宅での光線治療を毎日続けたところ、始めて五ヶ月たった十二月中旬頃から、皮膚の状態が徐々に改善し、今年一月からは見違える程に良い状態になってきた。二月十五日に来院された際にはほぼ軽快しており、患者はとても喜ばれていた。(TEL 044-731-5067)

## 治療例報告

### 腰部脊柱管狭窄症に 対する光線療法の効果

西東京市 ひばりヶ丘治療院 野島 豊子氏報告

症例 66歳 男性 土木業  
症状 糖尿病に対する医師からの指導で、運動には十分気を配っているが、最近、十五分くらい歩くと臀部から下肢にかけて痛みを自覚し歩行を途中で中断せざるをえない状態になっていた。病院では腰で神経を圧迫しているためと説明を受け牽引療法を行っているが、一向に症状は改善しないため来院した。

療法経過 右側臥位にてBBカーボンを中心として、腰部、背部、腹部、足裏、膝裏に対し五回の治療器による全身照射を30分施行後、腰部、大腿部、足甲に20分照射した。五回の治療が終了した時点で症状は軽くなり、歩行可能な時間が15分から30分に延びてきた。さらに、十

BDカーボンにて腹部、腰部を30分照射した。終了後には患部より、膿が自然と流れ出していた。その後、数日にわたり排膿が続き、

四日後に来院された時には、すっかり悪い物が出きったという感じで腫れも引いていた。(TEL 074-578-5336)

## 全自動光線治療器

### はつらつさんと ジョイントカーボン

サナモアはカーボンの芯剤を完全燃焼させることで最も効果のあるスペクトルを含む光線を放射するように、正面からカーボンをぶつける正面発光式を採用しています。そのため手動式のサナモア7号器・8号器では照射時間が十分強で切れ、長時間の照射にはご不便をお掛けしてききました。この点を改良したのが全

回終了時点では、症状に著しい改善を認め本人はとても喜んでいました。(TEL 044-131-7333)

## 関根榮一先生からの報告

前号にて、当治療室における不妊患者の体験談を掲載させて頂きましたが、その後、多くの方からお問い合わせを受けました。その中で、妊娠中の光線療法に関する問い合わせが意外に多かったのが報告させて頂きましたが、妊娠中の光線療法は、母体および胎児双方に対してかなりの効果を感じております。また、臨月に入ってから治療についての質問も頂きましたが、私は、妊娠初期から中期にかけての方が望ましいと考えております。(TEL 045-593-3810)

自動光線治療器はつらつさんで、照射時間は5分刻みで60分まで設定でき、時間に合わせてジョイントできるサナモアカーボンをつないでおけば、自動的にカーボンを送り安定した光線を放射します。

なおはつらつさんご使用の際には、安全性を保ち、事故を未然に防ぐため、ジョイントカーボン以外のカーボンは絶対に使用しないで下さい。使用上の注意は、「はつらつさん取扱説明書」をご覧ください。



# サナモア光線療法 体験記

## 肛門周囲炎が 光線で治りました

神戸市 柴〇和〇様(63歳)

初めて体験報告致します。今年の三月初め頃、肛門の中心から少し離れたところが腫れてきました。約二十年前にも同じようなことがあり、椅子に坐って仕事ができないう程腫れましたが、このときは近医で切開してもらい膿を出し二週間程度通院しました。しかし、今回は近々法事で一泊しなければならず、困ったなあと思いつつ、サナモアを思い出して、早速「光線療法学」の肛門周囲炎の療法に従い、A Bカーボンで肛門部20分、腹部5分、腰部5分、足裏10分を、

一日二回、多いときには三回照射しました。その結果、三日目頃から腫れが次第に引き始め、約一週間ですっかり腫れが引いて治ってしまいました。その後、今日まで全く異常なく、順調に経過しております。

追記・昭和四十五年頃、当時住んでいた沼津市から新幹線と山手線乗り継いで、目黒の研究所までサナモアを買い求めに行つて以来、ずっと愛用させて頂いております。

## 夫婦二人いつまでも サナモアを愛用します

熊本県 徳〇良〇様

先日、カーボンを受け取りました。ありがとうございました。私はサナモアを使い始めて20年以上になりますが、最近、病院で糖尿病による腎機能障害が進んでいるため透析療法が必要になるかもしれないと説明を受けました。そこで、またまた、サナモアにすることに致しました。毎日のように光線療法を始めてから、血糖値は下がり、身体全体が生き生きしてきたのには自分ながらびっくりしており

ます。また、妻も以前から腰痛と膝痛のため病院に通っていましたが、サナモアの鎮痛効果を知るところに、今ではサナモアを使うことを、病院に行つてくる」と表現したりしています。お蔭様で、妻はここ何年も病院にはお世話になっておりません。

これまで夫婦そろってサナモアを愛用してきましたが、びっくりするような治り方にはいつも驚かされています。サナモアを使用する頻度は、これからさらに増えることと思いますが、夫婦二人でいつまでもサナモアを使い続けていきたいと思っています。これからもよろしくお願い致します。

## サナモア体験記募集

サナモアの効果は体験しないと信じられないところがありますが、実際に効果を体験した体験記ほど説得力のあるものはありません。ついでに体験記をお送りくださいますよう、お願いいたします。

なお掲載させて頂いた方には、薄謝を贈呈致します。



サナモア光線協会  
趣意書

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。

サナモア光線協会は、サナモア光線療法に対する認知と評価を高めるため、一、季刊紙、「健康と光線」の発行、二、サナモア光線治療師の募集と育成の事業を行います。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

「健康と光線」の購読者を募集します。また事業の詳細はお問い合わせ下さい。

〒153-0063 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL (03) 三七九三二五二八  
三七二二一五三三二

(本紙の無断転用を禁止します。)